

科目名	日本美術史		Subject	History of Japanese Art	
サブタイトル	日本における伝統的なモノの姿・形				
科目基本情報			ディプロマポリシー「主な学習効果」		
開講年次	開講時期	必修／選択	美容芸術	社会実装	
1 年	前期	必修			
授業形態	単位	時間			
講義	2 単位	30 時間	◎		
ゲストスピーカー招聘回					
教員名	樋口 美咲		メールアドレス	misaki.higuchi@・・・	
教員の略歴	2024 年、昭和女子大学歴史文化学科卒業、2017 年、早稲田大学文学研究科博士後期課程美術史学コース満期退学。執筆論文に「大阪市立美術館蔵金輪仏頂五尊画像に関する一考察」「東密系焰魔天曼荼羅の成立に関する一試論」などがある。2018 年～2023 年、東京藝術大学大学美術館に学芸員として勤務。				
実践的教育	学芸の経験を活かし、日本美術の歴史的側面と造形的な魅力の両面から作品を紹介し、学生と一緒に考える授業構成とする。				
オフィスアワー	授業の前後 3 0 分に直接声をかけてください。				

科目の概要								
古代から近現代までの代表的美術作品（主に絵画）を取上げ、「いろ」「かたち」「せん(線)」などの造形とその表現について講述する。カラー図版を中心に、各時代・各分野の特徴・背景などをみて関心を深める。また日本美術史の基礎事項や見方についても詳しく解説することで、日本美術に関する基本的な知識を習得を目指す。								
授業方法								
対面	オンライン	ハイブリッド	ディスカッション	プレゼンテーション	作品制作			
○	-	-	-	-	-			
授業の目標と関連するディプロマポリシー（DP）								
ディプロマポリシー	授業の目標							
美容芸術	日本の伝統と文化の中で生まれた作品について基本的な知識を習得し、その魅力を自身の言葉で他者へ伝えることができる。							
教科書・教材								
教科書	教科書は使用せず、レジュメを毎回配付して、パワーポイントを併用して進める。							
参考文献	『日本美術館』（小学館、1997 年）、その他、適宜レジュメに掲載する。							
各自準備教材	筆記用具							
評価方法								
筆記試験	実技試験	受講態度	小テスト	レポート	プレゼンテーション	作品	課題	その他
80%	-	20%	-	-	-	-	-	-
各界の授業内で小レポートに取り組み、授業内レポートの提出をもって出席とします。								
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。								
課題（試験やレポート）のフィードバックの方法								
次回の授業にて返却します。								
履修上の条件・注意								
・第 1 回の授業で授業の進め方、授業中のルール、評価について説明しますので必ず出席してください。 ・試験の設問は配布資料、板書、講述から出題します。とくに講述内容からの設問に比重をおきます。受講に際してはノート・メモに努めて下さい。 ※何らかの社会的な状況変化等の諸般のやむを得ない事情により、授業方法、授業計画、評価方法等を変更する場合があります。								
本科目履修と関連する資格								
なし								

授業計画				
	授業内容	到達目標	時間外学習（予習・復習）	時間（分）
第 1 回	ガイダンスと導入 ：前期講義の概要とすすめ方 美術史とは、日本美術史とは。	美術史とは、日本美術史とはどのような学問分野なのかを理解し説明することができる。	あらかじめシラバスの熟読し、授業後には取り上げた用語についてまとめておく。	180
第 2 回	飛鳥時代の仏教美術	飛鳥時代における仏教美術についてその技法や造形、制作背景を理解し説明することができる。	配布資料を熟読し「仏教伝来・法隆寺・金銅仏・塑像」についてまとめ、自身の言葉で説明、発信できるように理解を深める。	240
第 3 回	奈良時代の仏教美術	奈良時代における仏教美術の造形と制作背景を理解し説明することができる。	配布資料を熟読し、「薬師寺・東大寺・乾漆像（かんしつぞう）」についてまとめ、自身の言葉で説明、発信できるように理解を深める。	240
第 4 回	中世の密教美術	密教とはなにか、密教の美術の特徴と造形について理解し説明することができる。	配布資料を熟読し、「密教・東寺・曼荼羅」についてまとめ、自身の言葉で説明、発信できるように理解を深める。	240
第 5 回	中世の浄土美術	浄土とはなにか、浄土教に基づき制作された美術とその特徴、時代背景を理解し説明することができる。	配布資料を熟読し、「浄土・平等院・来迎図」についてまとめ、自身の言葉で説明、発信できるように理解を深める。	240
第 6 回	やまと絵と絵巻	やまと絵とは何か、絵巻とはなにかを理解し、作品の鑑賞基礎知識を身につけ、応用することができる。	配布資料を熟読し、「やまと絵・絵巻」についてまとめ、自身の言葉で説明、発信できるように理解を深める。	240
第 7 回	室町時代の美術 ：禅宗の美術と土佐派	水墨画の伝来について理解し、作品の表現方法や技法を理解し説明することができる。	あらかじめ「水墨画」とは何かを調べ、授業後には水墨画に用いられる表現をまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	240
第 8 回	狩野派とその周辺	作家と流派に注目し、狩野派の系譜と各作品の特徴を理解し説明することができる。	取り上げた画家についてまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	240
第 9 回	近世初期風俗画 ：障壁画と都市図を中心に	障壁画や都市図が描かれるようになった背景を理解し説明することができる。	障壁画や都市図の表現をまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	240
第 10 回	琳派とされる人々／円山・四条派	作家と流派に注目し、作品の特徴と、表現の類似/相違を理解し説明することができる。	取り上げた画家、作品についてまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	240
第 11 回	文人画／若冲・蕭白・芦雪 ：新しい概念「文人」と「文人画」、伊藤若冲、曾我蕭白、長沢芦雪などいわゆる“奇想”の画家たちについて	作家や作品の特徴と表現を理解し説明することができる。	取り上げた画家、作品についてまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	300
第 12 回	浮世絵・洋風画	作家や作品の特徴と表現を理解し説明することができる。	あらかじめ「浮世絵」とは何か、「洋風画」とは何かを調べ、授業後には取り上げた画家や作品についてまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	240
第 13 回	明治時代の美術に関する動向 ：展覧会の登場、美術教育の整備、明治時代の美術	「美術」という言葉について考え、作品の表現とその制作背景を理解し説明することができる。	あらかじめ「美術」とは何かを調べ、授業後には取り上げた用語や作家、作品をまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	300
第 14 回	大正・昭和・平成の美術	各時代につくられた作品の制作背景を知り、その特徴を理解し説明することができる。	取り上げた画家、作家についてまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	240
第 15 回	まとめ	試験に取り組み、これまでの知識や美術の見方を具体的に述べるることができる。	これまで取り上げた日本美術の色、かたち、見え方、作品について総体的にまとめ、作品の基本的な情報や魅力を自身の言葉で発信できるようにする。	300